

経営比較分析表（令和3年度決算）

三重県 紀宝町

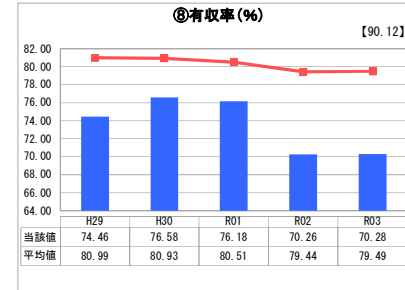
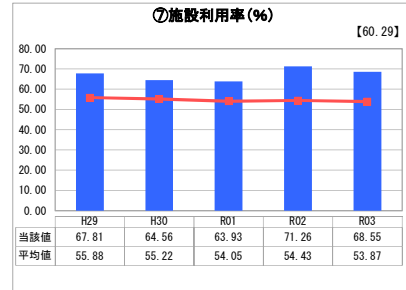
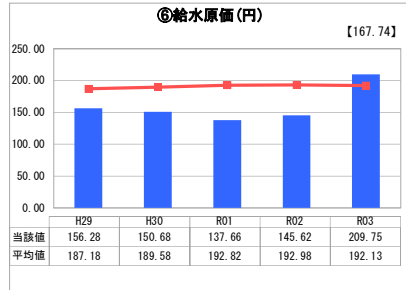
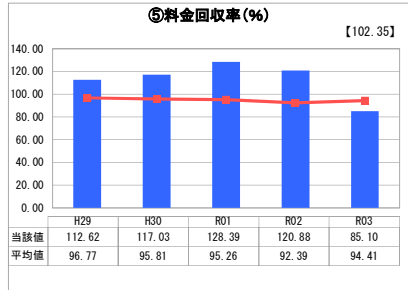
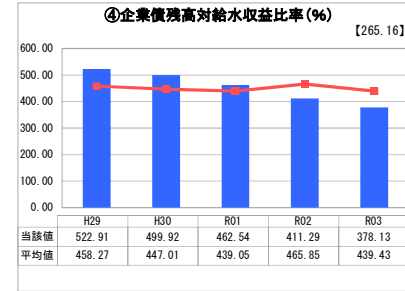
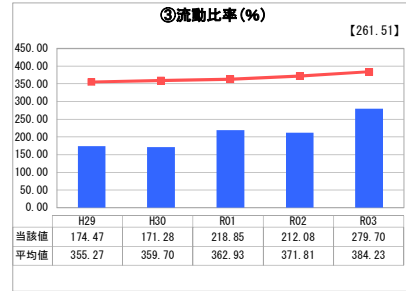
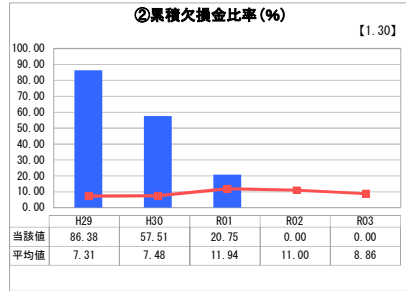
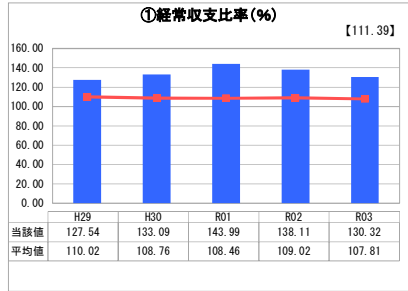
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	64.57	97.34	3,170	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
10,585	79.62	132.94
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
10,228	15.86	644.89

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

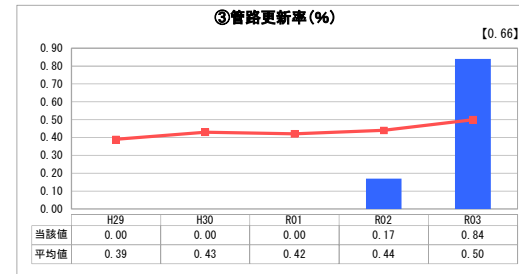
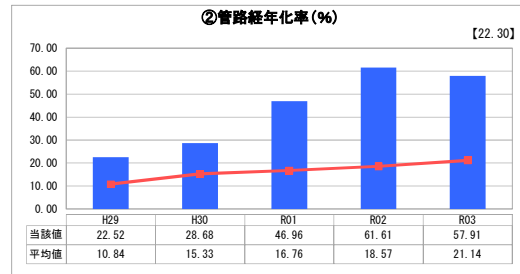
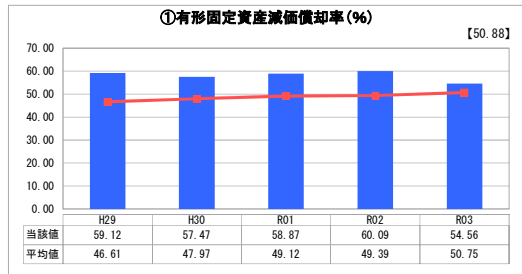
1. 経営の健全性・効率性について

平成27年度に料金改定を行ったこともあり、料金改定以降は経常収支比率は100%を上回っている。R3年度に配水管橋修繕により費用が多かったため、料金回収率は100%を下回った。今後施設の更新にかかる財源などを確保する為にも、経営改善に向けた取組を継続していかねばならない。累積欠損比率は年々減少し、令和2年度において欠損金は解消された。流動比率においては100%を上回っているが、類似団体と比べると平均値を下回っている。企業債残高対給水収益比率は少しずつ改善してきている。施設利用率については、平均値を上回っているが、余裕があり特に問題はないと思われる。有収率は、昨年と比べ微増しているが全国平均、類似団体と比べると低い状態にある為、有収率の向上に努めていかなくてはならない。

2. 老朽化の状況について

R3年度において有形固定資産減価償却率が下がっているがこれは桐原地区の上水道施設整備が行われ有形固定資産が増えた為と思われる。しかし依然として減価償却率が高く、資産の老朽化が進んでいる状況であるが、施設を更新する財源の確保が難しい状況である。管路経年率においても下がっているが、これも桐原地区の整備により管路延長が伸びた為と思われる。管路の老朽化は進行しており、令和2年度に作成したアセットマネジメント(資産管理計画)を基に更新を進めており、管路更新率は上昇した。

2. 老朽化の状況



全体総括

平成27年度に料金改定を行ったことにより、料金改定以降は経常収支比率は100%を上回っており、累積欠損比率は年々減少し、令和2年度において欠損金は解消された。今後とも費用の抑制及び収益の確保において改善を行い、有収率についても向上の為、効率的に管路更新や漏水修理を行っていく必要がある。創設から40年以上経過し施設及び管路の老朽化が進んでいる。令和2年度に作成したアセットマネジメント(資産管理計画)を基に更新を進めていく予定である。